

第2学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)

授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

みんなのものを大切に「C－(10) 規則の尊重」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

身近な約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解し、しっかりと守ろうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

(2) 教材名

「きいろいベンチ」（東京書籍 新しいどうとく2）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第1学年及び第2学年の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の指導事項「(12) 規則の尊重」 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」を受けている。

身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなで使う物や場所を進んで大切にし、工夫して使いたいという道徳的判断力や道徳的態度を養うことが必要である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、これまでの学習を通して、集団や社会で必要な規範を学んできている。しかし、この時期の児童は、まだ自己中心性が強く、ともすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動を取ることもしばしばある。また、身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についてはどうするのがよいのか、さらに、それはなぜなのかといった理解は不十分である。このような時期だからこそ、公共物や公共の場所の使い方や過ごし方について考えさせ、身近な約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためであることを理解させ、しっかりと守ろうとする道徳的実践意欲や態度を育てる必要があると考える。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、公共物や公共の場所を使うときの約束やきまりの意義について、周りの人が困っている様子や気持ちよく過ごせない様子に触れ、考えさせる教材である。

本時の指導に当たっては、紙飛行機を高い所から飛ばしたいという男の子たちの気持ちに共感させ、夢中になって遊んでいるうちにベンチに乗ってしまったことに、自分との関わりで捉えさせたい。きまりを守らなかったことで、女の子のスカートが泥だらけになってしまったことを取り上げ、二人はどのようなことを考えたのか、役割演技を通して考えさせる。役割演技後に、夢中になって遊ぶことで、周りに迷惑を掛けてしまったことに気付かせ、女の子へ謝罪したいという意欲や、今後からは、きまりを守って生活していこうとする態度を育てたい。

4 学習指導過程

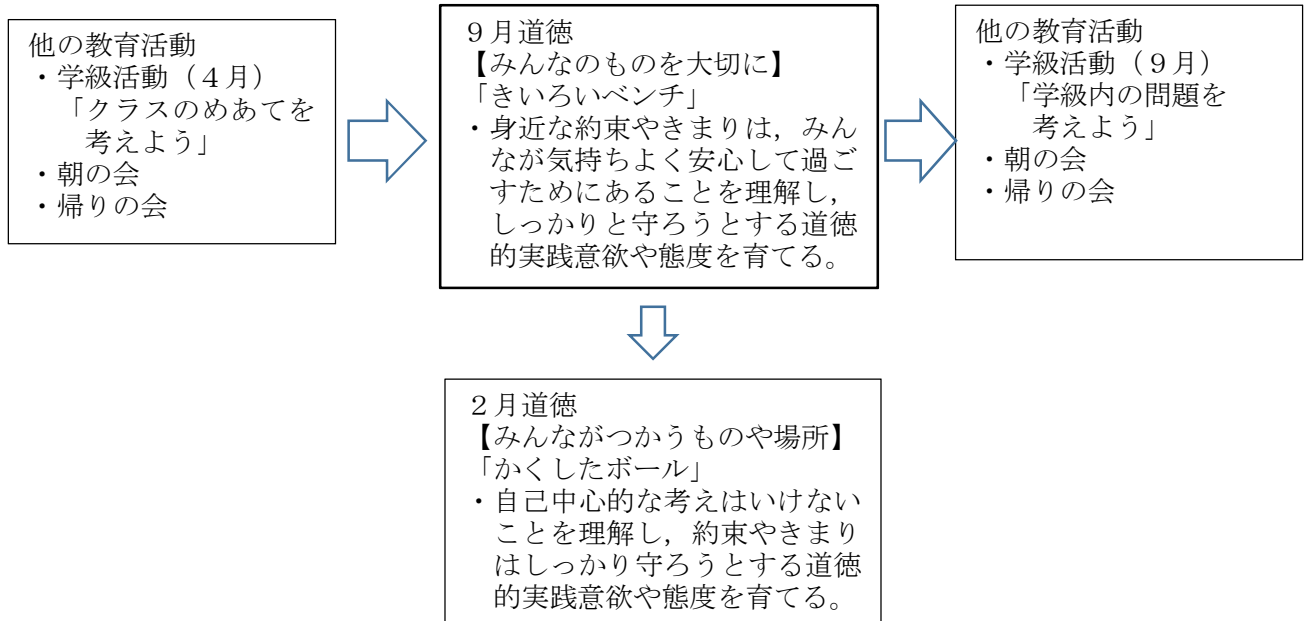
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問 ・予想される児童生徒の反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ 学校のきまりには、どのようなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下は走らない。 ・時間は守る。 <p>○ きまりは、何のためにあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなを守るため。 ・みんなが気持ちよく生活するため。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなが気持ちよく過ごすために大切なことを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりにはどのようなものがあるのか想起させ、何のためにきまりはあるのか問い掛けることを通して、本時の課題につなげる。
<p>展開 前段 20分</p>	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ 2人はどうしてベンチの上に乗って飛行機を飛ばしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと遠くまで飛ばしたい。 ・久しぶりに晴れて嬉しいから、もっと遊びたくなった。 <p>○ 2人は遊んでいる時、どのような気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくて、夢中になった。 ・もっと、もっと遊びたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ おばあさんの話を聞いて、2人はどのようなことを考えたでしょう。</p> </div> <p>○ たかし役とてつお役になって、何を話したのか考えましょう。</p> <p>おばあさん 「まあまあ、こんなにどろだらけのベンチにすわって、スカートがよごれてしまったわ」</p> <p>たかし 「どうしよう。ぼくたちのせいで、スカートよごれてしまった」</p> <p>てつお 「あやまったほうがいいのかな」</p> <p>たかし 「うん、あやまろうよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は、天気のいい日はどのようにして遊びたいか想起させることを通して、雨が続いて久しぶりに外で遊ぶことができた登場人物の気持ちに共感させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自我関与させるための問い返しの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりに晴れた日は、どのようにして遊びたいですか。 ・紙飛行機を持って遊ぶなら、どうしたいですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちに共感させることで、自分も夢中になって遊び、約束を守らなかった体験などを思い出させる。 ・役割演技を通して、たかしとてつおが遊びに夢中になって、おばあさんや女の子に迷惑を掛けたことに気付かせる。 ・役割演技の注意点を確かめてから、おばあさんの役は教師、たかし役とてつお役は児童が行う。 ・役割演技後に、教師がインタビュアーとして、たかし役やてつお役には、どうして謝ろうと思ったのか、汚れたスカートを見てどのように思ったのかについて聞くことで、きまりを守ることの大切さに気付かせせる。 ・見ていた子供達には、演技を見ていてどう思ったのかについて聞くことを通して、道徳的価値の理解を深める。 ・役割演技を通して、きまりを守らないことで

展 開 後 段 15 分	<p>てつお 「おばあさん、ごめんなさい。ぼくたちがよごしたの」</p> <p>たかし 「ごめんなさい」</p>	<p>周りの人に迷惑を掛けていることに気付かせる。</p>
	<p>4 みんなが気持ちよく生活するために必要なことについて考える。</p> <p>○ 2人にどのようなことを教えてあげますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチの上に乗って遊んでは、だめだよ。 ・他の人のことも考えながら、楽しく遊んでね。 ・周りの人に迷惑を掛けないように、きまりを守ろうね。 ・楽しく遊ぶことはいいことだけど、きまりは守ろうね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考えさせるために、グループで話し合い、登場人物の2人に、どのような声掛けをするのか聞き合う。さらに、全体でも考えを共有する。
終 末 5 分	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ みんなが気持ちよく生活するためには、どのようなことに気を付けていけばよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守って、周りの人たちに迷惑を掛けない。 ・ブランコに立ち乗りをしたことがあったけど、次に使う人のことを考えて、もう立たない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

たかしとてつおの心情の変化を考えることを通して、きまりを守ることの大切さについて、自分との関わりで考えようとしていたか。

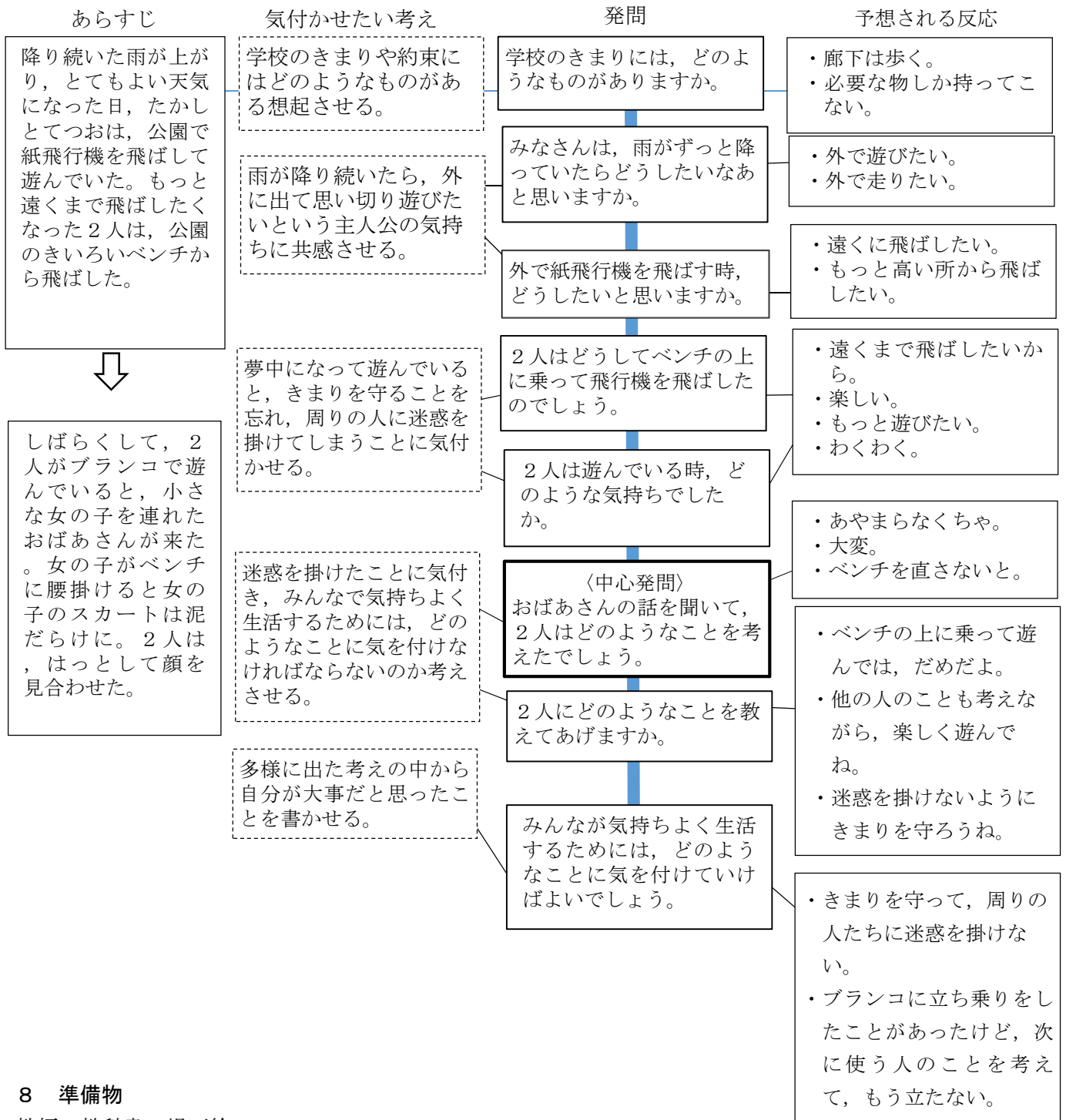
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【深化】

児童はきまりを守らなければならないことは、今までに学習している。しかし、遊びに夢中になって、きまりを守らないことや、きまりがあることに気付かずに、過ごしていることも多い。この教材を通して、きまりや約束を守らないことで、他の人に迷惑を掛けてしまうこと、きまりや約束を守ることで、みんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、集団生活におけるきまりや約束をしっかりと守ろうとする道徳的実践意欲や態度を育てるようにする。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

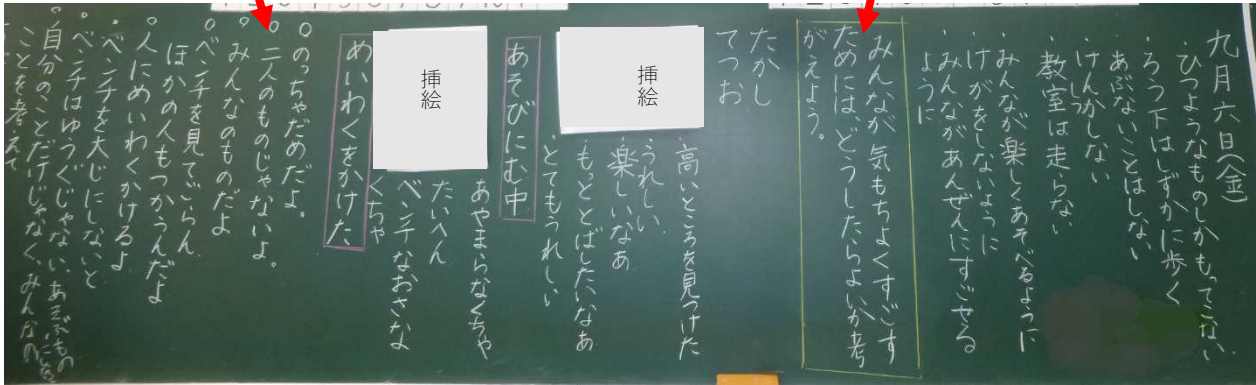
教師 教科書 場面絵
 児童 教科書 ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

児童の多様な考えを黒板に書き、多面的・多角的に考えさせるために活用した。

児童に問題意識を持って考えさせるために、考えることを提示した。



(1) 導入

問題意識を持たせた

問題意識を持たせるために、「学校にはどのようなきまりがあるのか」「きまりは何のためにあるのか」について話し合ってから、課題「みんなが気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいのか考えよう」につなげた。

○ 自分たちの身近なきまりを想起させ、何のためにきまりは守るのか、きまりを守ることがどのようなことにつながるのか考えるという、問題意識を持たせることができた。

実際のやり取り

T「学校には、どのようなきまりがありますか」

C「必要な物しか持ってこない」

T「他にはどのようなきまりがありますか」

C「廊下は静かに歩く」

C「あぶないことはしない」

C「けんかしない」

T「では、何のために、きまりはありますか」

C「みんな楽しく遊べるように」

C「けがをしないように」

C「安全に過ごせるように」

T「そうですね。みんな楽しく遊べて、怪我をしないで、安全に過ごせるようにきまりはありますね。今日は、みんなが気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいか考えていきます。」

(2) 展開

問い返しを通して、登場人物に共感しながら考えさせた

児童は、きまりは守らなければならないということは分かっている。しかし、夢中になって遊んでいると、きまりを破ってしまい、周りに迷惑を掛けてしまうことがある。登場人物の行動に対しての

児童の発言に問い返しをしながら、自分もそういう場合があるということに気付かせ、だからこそ、どうしなければいけないのかについて考えさせた。

- ベンチの上に乗って遊んだという状況を自分と重ねて考えさせる、自分もベンチの上に、上がってしまうかも知れないと想像させることにより、他人事ではなく自分の事として考えさせることができた。

実際のやり取り

- T「みんなはずうっと雨が降っていたらどうしたいなあと思いますか」
C「外で遊びたい」
T「たかしとてつおは、何をして遊びたくなりましたか」
C「公園で紙飛行を飛ばして遊ぶ」
T「みんなは、紙飛行機でどうやって遊びたくなりますか」
C「高く飛ばす」
C「遠くへ飛ばす」
T「高く遠くに飛ばすために、どうやって遊びますか」
C「高い所に上る」
T「たかしとてつおは公園で高い所を見付けましたね」
C「ベンチ！」

役割演技を通して

- 役割演技を通すことで、実感を伴いながら、夢中になって遊んできまりを守らないことで周りに迷惑を掛けてしまうことに気付かせることができた。

ノートの記述より

- ・じぶんたちだけのことを考えないで、みんなのことを考えてつかってね。
- ・ベンチに立つとめいわくをかけるし、みんながすわるものだよ。二人のものじゃないし、ゆうぐでもないよ。みんなのことも考えてね。
- ・ベンチはすわるものだよ。立たないよ。ほかの人もつかうから考えてつかってね。

(3) 終末

「みんなが気持ちよく生活するためには、どのようなことに気を付けていけばよいでしょう。」と課題に対して改めて着目させ、ノートに記述させた。

ノートの記述より

- ・みんなのものだから、みんなで大じにする。
- ・みんなのことを考えてルールをまもる。
- ・まわりの人の気持ちを考える。
- ・やくそくをまもってあそぶこと。